

1 取組の概要及び成果等

(1) 取組の概要

本年度は全学年を対象に、①ボランティアなど社会奉仕に関わる活動 ②自然に関わる体験活動 ③勤労生産に関わる体験活動 ④文化、芸術に関わる体験活動 ⑤交流に関わる体験活動 ⑥その他の活動として、地区探検を実施した。

(2) 特に工夫や配慮をした事項

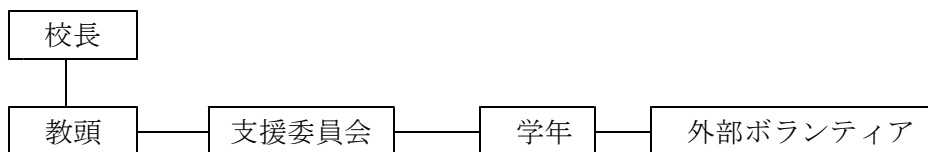
- 豊かな体験活動を教育課程に位置づけ、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等との関連を図りながら実践できるよう配慮した。
- 各活動を実施する上で、保護者や地域ボランティア等の方との打合せが十分にできるよう配慮した。

(3) 成果等

- 本校の校庭内を流れている「なかよし川」水質検査や上流に生息する動植物の観察、また、ケナフの栽培と紙すき、全学年による親子ウォーキング・クリーン作戦等の体験活動を通して、環境問題について感じたことを発表したり、解決方法を話し合うなどの機会を持つことにより、環境問題に対する関心は大いに高まった。
- 自分たちが住む地域内の歴史や伝統・文化を諸活動を通して発見することにより、郷土を愛する心が芽生えてきたように思われる。
- 本年度の体験活動において、児童が中心となって計画・実践・反省を行うことにより協力性や道徳性が各学年とも高まってきた。

2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

(1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要



(2) 成果等

- 体験活動を実践していくためには、保護者や地域ボランティア等の協力や支援が必要となる。そこで、本年度は、PTA本部役員を学校支援委員会のメンバーとして、様々な活動に関わる諸準備や各種団体等への協力依頼など積極的に行っていただいた。本年度計画した様々な活動が、安全にそしてスムーズに実施できたことは支援委員会の各委員さん方の協力によるところが大きいと考える。

また、本校の教育目標の一つに「心豊かな子どもを育てる」とある。まさに本年度の支援委員会の活動は、学校教育目標の具現化に大きな成果を上げたことと考える。

3 今後の課題と改善点

- 様々な体験活動を通して、児童一人一人の豊かな心を育成するためには、各学年の発達段階に応じた活動目標を明確にし「学びの場」を保障できる多様な活動を推進することが次年度の課題である。